

<p style="text-align: center;">原稿 1975年4月</p>	<p style="text-align: center;">程诚律师訳 2011年 (北京大学学士，京都大学修士)</p>
<p style="text-align: center;">都市と緑と過疎の村</p> <p>近年、文化財の格護、殊に人類生存の鍵とも自覚されてきた環境保全運動の象徴である“緑”の保護に対する世間の関心の高さには実に目を瞠るべきものがある。本当に喜ばしい限りである。</p> <p>しかし、敢て苦言を呈すれば、「自然に親しもう」「植樹をして緑化増進に協力しよう！」「自然保護協会の会員募集！」等々のキャンペーンに便乗して、年に一度、二日や三日の間、都心より遠く隔たった山村に出掛けて、即席に”自然”に浸って、果たして何某の益有り、と言い得ようか。“緑業者”とも言うべき営利のみを目的とする組織の吹く笛に虚しく踊らされているに過ぎないのではなからうか。</p> <p>かくのごとき理不尽なる“緑ブーム”の下には、杉・桧の所謂、有用なる樹種のみを植栽して、美林だけを造成する結果となり、そのことが取りも直さず、人類生存という点に於いて致命的なる損傷を与えることを真剣に危惧すべきである、とする少数の良識ある学者たちの警告は、ほとんど抹殺されているのが今日の現状である。</p> <p>いまひとつは、平常の生活に於いて、“緑”を全く知らないで過ごしている、言わば“緑音痴”とも言うべき都市住民が、年に一度や二度、緑業者の用意した“緑ツアー”に便乗して、山村に出掛けて行き、其所で数日間「自然に親しむ生活」を過ごして自己満足に陥るとすれば、山村住民との意識のズレは相当大きなものであろうし、そのために仕舞には、山村住民の都市住民に対する反感を惹起することにもなり、都市住民侵入阻止の運動に出る村々も出現するのは必至の事と推察される。</p> <p>何故ならば、多くの都市住民の目的は飽く迄も“自然に親しみ、ストレスを解消する”ことであり、そのためにこそ、高い交通費や会費(入山費・キャンプ料等を含む)を支払っているのであり、さらに彼等の意識の底には、過疎に苦しむ村々に活気を呈してやろう、貧しい村に“金”を落としてやろう、との傲慢なる差別意識が多かれ少なかれ、眠っていること、或いは将来に於</p>	<p style="text-align: center;">都市、緑化与人口稀疏化的农村</p> <p>近年来，人们对于非物质文化遗产保护、尤其对于被认为是关系到人类生存的环境保护运动的象征——植被保护非常重视。这实在是一个值得关注、并且让人无比欣喜的现象。</p> <p>然而，美中亦有不足。当人们搭乘着所谓的“让我们亲近大自然吧！”“让我们一起植树、促进绿化吧！”“快来加入自然保护区吧！”等活动，一年一次、每一次两三天地来到远离城市的山村，在那里立刻便可以在那里享受大自然的时候，这些活动最终却成为了某些人的摇钱树。不得不说，这些消费者不过是受到那些唯利是图的应当被称为“绿色商人”的蛊惑、做着些没有意义的事情而已。</p> <p>在这样的违背本意的被扭曲的“绿化浪潮”之下，人们只种植诸如杉树、柏树等那些有用处的品种，结果“绿化”变成了“美化”。有些有良知的学者提出警告，认为这做法可能会给人类生存带来严重威胁、人们理应对这个警告抱有敬畏之心。然而，现今的情况是，这些警告大多不被人们接受。</p> <p>并且，城市居民们平日里对“绿”一无所知。他们不过是一年一两次地搭乘着“绿色商人”组织的“绿色旅游”来到农村地区，在那里亲近几天大自然并且因此陷入自我满足之中。正因如此，他们同农村居民在思想意识上存在很大差别。所以，城市居民的来访，可能会招致农村居民的反感，而反对城市居民“入侵”农村的运动也必然会出现。</p> <p>究其原因，是因为大多数城市居民的目的是“亲近大自然以减轻压力”，同时也正是为了此目的，才支付高额的交通费、会费(包括入山费、露营费等)的。在他们看来，自己在为受人口稀疏散扰的农村地区的经济带来活力，自己是在对贫困的农村地区进行施舍。我们不能否认，这种傲慢的带有歧视性色彩的思想在他们的意识底层中，或多或少地潜伏着，或者说将来可能会滋生。</p>

いて芽生え得ることは否定できぬであろう。

山村住民にとって、自然は何よりも生活の糧を恵んでくれる神聖なる場であり、今日に於いても、畏敬の対象である。

極端に言えば、自然をストレス解消の玩具としか見做さない都市住民が土足でもって、祖先伝来の神聖なる場を蹂躪するのを座視することは、山村住民にとっては何としても耐え得ぬものがある。

では、どうすればよいのか。

都市住民と山村住民との両者が共に福利を享受し、終始友好的に相互扶助し得るためには、先ず第一に、都市住民の自然の恵みに対する誠実なる感謝の心を日頃より育成する、ということ。第二には、飽く迄、山村住民の大切な場の一部を提供していただくことを肝に銘じて、村民の協力を心より懇請し、その謝礼として、過疎対策に協力、村山の資金欠乏に対しても相応の援助を惜しまない、という謙虚なる姿勢を堅持することが必要不可欠であろう。何よりも、“自然”は“金”で購い得ないものであることを徹底して自覚認識することが、特に都市住民の側に於いて緊要のことと思われる。

其処には当然、都市住民の自然に対する感謝の心を如何にして培うか、という問題が生ずるが、先ず第一に為さねばならぬことは、多くの国々では既に施行されていることであるが、他ならぬ彼等自身の住み、生活する“都市”に於いて、今日、僅かに残存しているところの百年以上の樹齢を有つと推定される樹木の保護政策を、国や自治体が強力に推進してゆくことであろう。何故ならば、百年以上の樹木は既に人為人造のものを超えた、自然の一部と見做すべきであり、況んや、数百年、数千年の歴史を経て来た巨大樹木は自然そのものであり、延いてはその樹下に“生れ、育ち、老い、死去せし”泡沫の如く去来した先祖たちの積み重ねた歴史の逐一を慈悲黙然と静視し続けてきた替え難き証人である。強いて言えば、その樹皮の中には先祖の言葉、行動乃至心情の一々が浸み入っているとも言えよう。我等自身、さらには子孫たちのそれも又、浸透してゆくことであろう。

とすれば、“木霊”“木魂”“木精”等は他でもなく、この樹下に喜怒哀楽した人々の玉志の精が、積みて成れる者と言わねばならぬ。

となれば、山村の自然は山村住民の“宝”であ

然而对于农村居民而言，大自然是恩赐他们生活食粮的神圣之园，即使在今天也是应当加以敬畏的对象。

极端地说，农村居民无法忍受那些仅仅将大自然看做解除疲劳的玩物的城市居民们用肮脏的脚踏踏他们世代传承的这片神圣的土地。

那么，要怎么解决这个问题呢？

为了让城市居民和农村居民互惠互利、世代友好相互扶持，要做到一下两点。首先，城市居民应当努力始终保持一颗对大自然的恩惠抱有真诚的感谢的心。再次，城市居民应当铭记于心的是，农村居民是将自己无比重要的大自然的一部分提供给城市居民享受的，因此，要对农村居民的这种恩赐采取“恳请”的姿态，而作为其回报，应当尽力协助“人口稀疏化对策”，并且大方地对农村地区给予必要的资金援助。城市居民必须秉持这种谦虚的态度。当然，比起以上两点，更为重要的是，尤其要在城市居民中树立起“金钱”换不来“自然”这样的自觉意识。这一点已是刻不容缓。

当然，在这里问题是，如何让城市居民培养出一颗对待自然抱有感恩的心。首先要做的是，国家和地方政府应当有力推进对于城市（不是别人、正是城市居民自己所居住的地方）中那些少量残存的百岁以上树龄的树木的保护政策。理由是，这些百岁以上树木已经超越了人为、人造的范畴，应当被看做自然界的一部分了。更不用说那些数百岁乃至上千岁的大树了，我们甚至可以说它们便是大自然本身。它们是逐一地慈悲地默默注视着在它们之下生老病死、来去匆匆的祖先们的历史的无可替代的证人。而祖先们的言语、行动乃至心情也都一一地渗透入了他们的树皮之中。今后，这种渗透也注定将世代地延续下去。

所以，我们不得不说，“树灵”“树魂”“树精”等正是在树下历经喜怒哀乐的人们的灵魂凝聚而成的。

这么说来，如果说农村地区的大自然是村民们的至宝的话，那么像这样巨大的树木便是

り、都市の住民にとっての何よりの宝は、かくのごとき巨樹大木でこそあらねばならぬであろう。

「知恵」と「痴得」の葛藤

都市に住む我々は、脚下を照顧して、灯台下暗しの弊に陥ることの無いように努めねばならない。

其の上で、雑木とされる照葉樹(クス・シイ・カシ等)を中心とする種々の植樹運動を主体的・積極的に展開し、或いは民間に於ける(即ち、都市住民自身の推進する)同種の運動をも指導、援助してゆけば良いであろう。官民一致協力して、先ず都会に自然の雛形を造成することである。いかにも困難な事業であるが、その難事達成への努力を積み上げてこそ、自然と云うものは一度破壊すれば、十年や二十年の短期間で即席に復元生成し得るものではなく、人智人力の遙に及ばぬ大なるものであることを少しでも認識できようし、同時に、本物の自然に対する感受性を平常より養っておいた上で、山村の生活を体験すれば、都市住民と山村住民との摩擦は自然と氷解しようし、互いに各々の立場を理解するように努める余裕も生じて、相互の結び付きは非常に緊密且良好なるものに好転するは必然であろう。そのことが、取りも直さず、人類全般の幸福招来への確かな基礎となるのである。

今日の自然科学は“不自然科学”と改称すべきだ、とは常々主張してきたことではあるが、現今の科学が真に、自然科学であれば、人類が今日の不幸・苦悩に苛まれることはありえなかつたであろう。人工科学・不自然科学であつたればこそ、自然を破壊し、人類生存(“人類”は、“一切衆生”と置き換えるべきであるが、今は本文のままにしておく。)の唯一絶対、掛け替えのない基盤である地球そのものまでも破壊の危機に至らしめているのである。核兵器の乱造、それ以上に恐ろしいものが、“原子力開発とその平和利用”に対する認識のあまりにも甘い事実である。人類は核戦争で滅びる危険は非常に少ないが、核エネルギーの“平和的利用”の悪魔の為には一朝にして滅亡してしまうであろう。前者には罪の意識があるが、後者には露ほども無い故に、である。

自然科学者、指導階級、さらには一般の人々さえもが、このことをよく知っていて、しかも実

城市居民的无上珍宝。

“智慧”(chi'e)与“痴得”(chi'e)的纠葛

住在城市的我们，必须时刻注意脚下，须知灯台之下往往更容易看不清事物。

在此之上，以那些被当做“杂种树木”的照叶树类(樟树、椎树、橡木等)为中心，展开各种树木的植树运动，或者指导、援助民间(即城市居民自主推进)的此类运动。官民同心，首先在城市建立起自然的雏形。虽然这是一项十分困难的工程，但是，只有为了达成困难的目标而不断努力，人们才能多少地认识到，自然一旦被破坏，并不能在十年、二十年的短期内立刻恢复原状，其困难程度远远超出人类的智慧和体力。与此同时，城市居民在养成了对真正的大自然的感知能力的基础之上再体验农村的生活的话，城市居民和农村居民之间的矛盾便会自然消解，相互之间也更加容易理解彼此的立场，并转而形成紧密且良好的关系。自然不用说，这将是全体人类获得幸福的坚实的基础。

常常有人主张，如今的自然科学应当改称为“不自然科学”，因为如果现今的科学真的是自然科学的话，那么人类也就不会陷入不幸和烦恼之中了吧。正因为是“人工科学”“不自然科学”，它才会破坏自然，甚至让人类(这里的“人类”应当换成“一切众生”。在此，暂且不做变更。)赖以生存的唯一绝对的无可替代的家园——地球陷入毁灭的危机。比起核武器的滥造更可怕的是，人们对于所谓的“原子能的和平开发与利用”的天真无知。其实，人类因为核战争而灭亡的危险性很低，相反，恰恰可能会因为核能的“和平利用”这一恶魔而顷刻灭亡。因为关于前者，人们有“罪”的意识，而关于后者，则丝毫没有。

我们不得不说，自然科学家、领导阶层乃

際、極端なまでに無知であり、測り知れぬほどに無責任であると言わねばならぬ。勿論、「先祖に対して、また後世、生まるべきであった子孫に対してである。」

今、人類に最も肝要なるものは“痴得”(要求することばかり、獲得することばかりに汲々とする醜我・邪智)をかなぐり捨てて、“知恵”(恵まれていること、恵み与えることを知る聖我・浄智)を修得せんと精進する真の勇氣であろう。もはや、各人一人一人心底よりの信実の叫び声に耳を傾け、その声に導かれて誠実なる行動に移らなければ、我等の地球を保護することは先以て不可能であろう。

有能と節制

最も有能な人が誰よりも質素な生活を心掛けることのみが人類の生命をも全うさせ、地球上の生物の一種としてのつとめを果たすことでもあろう。

有能な人であればあるほど清貧の生活に自身の誇りを見出すことができるかどうか、人類全体の浮沈を握る鍵である。真の知恵とはこのことこそであろう。この一事の大切さのみを伝える為に、ソクラテス・釈迦・孔子・キリスト……宮沢賢治などが身を以て、人生の処し方を示したのである。一度きりの人生を悔いの無いように過ごしたいものだ。

何よりも自分の愚かな、我が侷の為に他の人の生命などを、犠牲にしないためにもである。

特に、社会正義を行動の第一規範にすべき「尊い」職業についている諸先生方には、お願いしたいものである。

昭和 51 年 4 月

座右銘:

志士仁人、無求生以害人、有殺身以成仁。

「飯疏食飲水、曲肱而枕之、在陋巷、樂亦在其中也。」不義而富且貴、於我如浮雲。(述而)

不患人之不己知而患己之不知人也。不怨天、不尤人下学而上達。無伐善、無施勞。

「茅屋為秋風所破嘆」 杜甫

至一般大众，都深知此事，并且实际上极端地无知、无比地没有责任心。这种没有责任心，是对祖先，同时也是对子子孙孙。

现在，对人类而言最重要的东西是抛弃“痴得”(执迷于索取与获得的丑我、邪智)转而修得“智慧”(参透出被恩赐与恩赐于人的圣我、净智)的不断上进的真正的勇气。就现今情况看来，如果人们不侧耳倾听内心真实的呼唤、并顺从这个声音采取诚实的行动的话，想要保护我们的地球将是不可能的事情。

有能与节制

最有才能的人应当比谁都要恪守朴素的生活。只有这样才能维护人类生存，而这也是这些人作为地球上的生物所应尽的职责。

有才能的人能否在清贫的生活中感受到自身的骄傲是主宰人类沉浮的关键。这才是真正的智慧。为了诠释这一点的重要性，苏格拉底、释迦牟尼、孔子、耶稣……宫泽贤治等都以身作则向人们展示对待人生的方法。我们也真希望像这样无悔地过完一生。

这也是为了不至于因为自己的愚蠢和自私而牺牲掉他人的生命。

望那些从事着应当将社会正义作为第一行为规范的令人尊敬的职业的长者们可以恪守此道。

安得広厦千万間

大庇天下寒士俱歡顔

風雨不動安如山

嗚呼何時眼前突兀見此屋

吾廬独破受凍死亦足

「先憂後樂」 岳陽樓記 范仲淹

先天下之憂而憂後天下之樂而樂

いつまでも あると思ふな 身と心

信なきままに 消ゆるは悲し